(c)宮崎日日新聞社

生き物工作 アイデア次々

児童、プログラミング作動

宮崎市



作りたいモノのアイデアを膨らませる児童ら

プログラミングを使った20人が参加し、アイデア豊かに、自由な発想でオリジナル工作を仕上げた。

おもちゃ作りに挑戦する「CAMPクリケットワークショップ」が、宮崎市の宮崎公立大交流センターで企業2社の共催で15日に開催した。

児童の発想力や、仲間と協力して物事に取り組む力を育もうと、同大学、IT

児童は2人一組になり、「宮崎にいそうな生き物」を工作。まずはカッパやクジラなどアイデアを絵に描き、乾電池で動く小型コンピューター基板「ピコクリケット」に紙コップやカラーリングなどで工夫を凝らして装飾した。モーターや光センサーを付けた後、担当者の指導を受けて動きや音をプログラミング。おもちゃが動くと、笑顔が広がっていた。

姉弟で参加した同市・西池小5年の一見さくらさん(11)は「話し合いながら新しいモノを作るのが楽しい。見たことない生き物をどんどん作りたい」と意欲的だった。（竹内夏海）